

石川 賢吾 (BASF ジャパン株式会社 化学品・農薬統括本部)

1. はじめに

世界の人口が急速に増加する中、耕地面積を大幅に増やすことは容易ではなく、食料増産を実現するには単位面積当たりの収量を向上させる必要があり、農薬の重要性は益々高まっている。これに伴い、農薬市場は世界的に拡大を続けており、農薬製剤開発の現場においても、世界に目を向けた開発が進んでいる。このような中、農薬製剤に使用される原料について、日本のみならずグローバルで調達できる原料のニーズは高い。

一方、農薬製剤の処方確立のためには、溶剤、乳化剤、分散剤、増粘剤、キャリアー等、複合的な材料の選定が必須となっており、農薬製剤向けに幅広い製品群を持つ BASF は、多くの農薬製剤開発者から支持されている。

そこで、本発表では BASF が農薬製剤原料として取り扱っている製品、及び溶剤の選定基準となる物性データや溶解性について紹介する。

2. 内容

2. 1 BASF 製品

- ・Propylene carbonate(PC)
- ・gamma-Butyrolactone(GBL)
- ・N-Octylpyrrolidone(NOP)
- ・Glymes
- ・2,4,7,9-Tetramethyl-5-decyne-4,7-diol(TMDD) など

2. 2 物性データ

融点、沸点、蒸気圧、密度、表面張力、粘度、R-フレーズ、S-フレーズ等の物性データについて溶剤ごとにまとめ、比較を行った。

2. 3 溶解性

各種溶剤に原体を溶解させ、その溶解性について検証を行った。

Introduction of BASF Products for Pesticide Formulations

Kengo Ishikawa (BASF Japan Ltd.)

In this presentation the BASF products for Pesticide formulations are introduced. BASF has a broad product portfolio for Pesticide formulations and supply the components globally. We made a comparison of the physicochemical data and solubility for each solvents.